

「自殺予防いのちの電話フリーダイヤル連続168時間」のQ&A

一般社団法人 日本いのちの電話連盟 事務局

Q1. いのちの電話とはどういう活動をしている団体ですか？

A1. 人が生きていくうえで何よりつらいことは孤独であると言われています。いのちの電話は、孤独でつらい思いをしている方々が再び生きる力を取り戻せるよう電話相談を全国で活動しています。自殺予防だけでなく、孤独や不安を抱えた人に寄り添う市民活動です。

Q2. いのちの電話の歴史と現状はどうなっていますか？

A2. 「いのちの電話」の活動は、1953年に英国のロンドンで開始された自殺予防のための電話相談に端を発しています。日本ではドイツ人宣教師ルツ・ハットカンプ女史を中心として準備され、1971年10月日本で初めてボランティア相談員による電話相談が東京で開始されました。1977年、当時いのちの電話は全国にわずか5つのセンターでしたが、この市民運動を全国に展開するために、その中心的役割を担う組織が必要となり、日本いのちの電話連盟が結成されました。その後この運動は飛躍的に拡大し、2011年10月1日には、いのちの電話開設40周年を迎え、記念式典には、皇后陛下のご臨席を賜りました。2024年現在、連盟加盟センターは50センターとなり、約5800名の相談員が活動しております。2024年の相談件数は約56万6千件でした。

Q3. なぜ3月10日から1週間やるのですか？

A3. わが国では特に3月に自殺者数が多いことから平成18年に自殺対策基本法が制定された際、3月を自殺対策強化月間と定められました。その自殺対策強化月間に協賛する企画として厚生労働省のご支援により、全国のセンターでフリーダイヤルによる受信を1週間やることにしました。

Q4. フリーダイヤルを利用するメリットは何ですか？

A4. フリーダイヤルのメリットは、かけ手が通話料を負担せずに相談できることです。また、覚えやすい1つの番号で全国のセンターに一斉にアクセスして、待機中の相談員が誰でも受信することができるため、電話がつながりやすくなっています。

Q5. 毎日24時間、フリーダイヤルでの受信はなぜ出来ないのですか？

A5. 現在、フリーダイヤルは毎月10日の24時間と毎日16時から21時までの5時間のみ利用可能です。これは、フリーダイヤルの通話料を受信側が負担しているためであり、その費用は厚生労働省の補助金で賄われています。しかし、補助金には限りがあり、毎日24時間の運用は難しいのが現状です。

また、各センターでフリーダイヤルを受けるための体制にも限りがあるため、毎日24時間の対応は困難です。

Q6. 相談電話の受信はフリーダイヤルの他どのようなになっているのですか？

A6. 各センター毎にその地域の固定電話番号による受信と全国統一のナビダイヤルによる受信をしています。

Q7. いのちの電話はつながりにくいと言われていますが、この施策によってつながりやすくなるのですか？

A7. フリーダイヤルの利用可能な日と時間が拡大されるため、その期間中は利用しやすくなると考えられます。ただし、通話が集中する時間帯には、つながりにくくなることもあります。